

授業科目	解剖学 I	担当教員	外部講師 河村 洋子	単位数	1	時期	1 年次 4 月～7 月		
				時間数	30				
目的と目標	<p>人体の正常な構造を理解し、人体を構成する細胞、組織、器官の基本的な形態と機能を臨床的事項と関連しながら理解する。</p> <p>1 人体を構成する細胞から器官にいたる基本的な形態を理解する。</p> <p>2 人体を各系統に分け、それらを構成する各器官の正常構造を理解する。</p>								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1 2	人体とはなにか 細胞と組織	(1) 解剖学の定義 (2) 人体の内部構造 (3) 解剖学用語 (4) 細胞の基本構造 (5) 細胞の増殖と染色体 (6) 細胞がつくる組織			講義	外部講師 (河村洋子)			
3 4 5	消化器系	(1) 口・咽頭・食道の構造 (2) 腹部消化管の構造 (3) 膵臓・肝臓・胆嚢・腹膜の構造			講義				
6 7	内分泌系	(1) 全身の内分泌腺と内分泌細胞 (2) 膵臓の構造			講義				
8 9	人体の発生 生殖器系	(1) 生殖細胞と減数分裂 (2) 性染色体と性の決定 (3) 受精、着床と胚葉の分化 (4) 胎児と胎盤 (5) 男性及び女性の生殖器			講義				
10 11 12 13	神経系	(1) 神経系の構造 (2) 脊髄、脳の構造 (3) 脊髄神経と脳神経 (4) 伝達路			講義				
14	感覚器系	(1) 各感覚器の構造			講義				
15	試験(1時間) まとめ(1時間)	(1) 筆記試験			試験 講義				
評価方法	筆記試験 100 点								
教科書 参考文献	系看 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと								

授業科目	解剖学Ⅱ	担当教員	外部講師 阿閉 泰郎	単位数	1	時期	1年次 4月～7月			
				時間数	30					
目的と目標	<p>人体の正常な構造を理解し、人体を構成する細胞、組織、器官の基本的な形態と機能を臨床的事項と関連しながら理解する。</p> <p>1 人体を構成する細胞から器官にいたる基本的な形態を理解する。</p> <p>2 人体を各系統に分け、それらを構成する各器官の正常構造を理解する。</p>									
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員				
1 2 3 4 5 6	運動器系	(1) 骨格とは (2) 骨の連結 (3) 骨格筋 (4) 体幹の骨格と筋 (5) 上肢・下肢の骨格と筋 (6) 頭頸部の骨格と筋			講義	外部講師 (阿閉泰郎)				
7 8	呼吸器系	(1) 鼻腔と気管 (2) 肺の構造								
9 10 11	循環器系	(1) 心臓の構造 (2) 末梢循環器の構造 (3) リンパ性器官								
12 13	泌尿器系	(1) 腎臓の構造 (2) 排尿路の構造 (3) 皮膚の構造								
14	皮膚	(1) 皮膚の構造								
15	試験（1時間） まとめ（1時間）	(1) 筆記試験 (2) まとめ						試験 講義		
評価方法	筆記試験 100点									
教科書 参考文献	系看 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①（医学書院）									
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと									

授業科目	生理学 I	担当教員	外部講師 有川 一	単位数	1	時期	1年次 6月～10月		
				時間数	30				
目的と目標	<p>人体を構成する各器官の機能について系統的に理解する。</p> <p>1 人体の細胞と生命を維持するために必要な呼吸、循環、消化、吸収の働きが理解できる。</p> <p>2 人体機能を調整する体温調節、内分泌、代謝の働きが理解できる。</p> <p>3 人体の活動を統合する運動、感覚、神経の働きが理解できる。</p>								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1 2	細胞の構造と機能	(1) 細胞の機能 (2) 機能からみた人体 (3) 遺伝子 (4) 核酸とタンパク質の合成			講義	外部講師 (有川 一)			
3 4 5 6	消化と吸収	(1) 口・咽頭・食道の機能 (2) 腹部消化管の機能 (3) 膵臓・肝臓・胆嚢の機能 (4) 栄養と代謝のメカニズム			講義				
7 8	循環器系	(1) 循環の仕組み (2) 心臓の働き (3) 血圧・血流量の調節 (4) 循環器系の病態生理			講義				
9 10	呼吸器系	(1) 呼吸の調節 (2) 呼吸運動 (3) 肺の呼吸機能			講義				
11 12 13 14	内分泌系	(1) 内分泌とホルモン (2) 全身の内分泌腺の機能 (3) ホルモン分泌の調節 (4) ホルモンによる調節の実際			講義				
15	試験(1時間) まとめ(1時間)	(1) 筆記試験 (2) まとめ			試験 講義				
評価方法	筆記試験 100 点								
教科書 参考文献	系看 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと								

授業科目	生理学Ⅱ	担当教員	外部講師 有川 一	単位数	1	時期	1年次 10月～12月
				時間数	30		
目的と目標	人体を構成する各器官の機能について系統的に理解する。 1 人体の細胞と生命を維持するために必要な呼吸、循環、消化、吸収の働きが理解できる。 2 人体機能を調整する体温調節、内分泌、代謝の働きが理解できる。 3 人体の活動を統合する運動、感覚、神経の働きが理解できる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	体液と電解質	(1) 体液と電解質 (2) 体液・体温の調整			講義	外部講師 (有川 一)	
2	血液、生体防御	(1) 血液の循環とその調節			講義		
3		(2) 血液の働きと血液の成分					
4		(3) リンパの循環と機能					
5		(4) 免疫					
6	腎臓・泌尿器	(1) 腎臓の機能			講義		
7		(2) 尿生成のメカニズム					
		(3) 腎臓から分泌される生理活性物質					
8	骨格系	(1) 筋組織の種類と機能			講義		
9		(2) 筋収縮のメカニズム					
10	神経系・感覚器系	(1) 神経系の機能			講義		
11		(2) 脊髄、脳の機能					
12		(3) 運動機能と伝導路					
13		(4) 感覚器の機能					
14	生殖、発生、老化のしくみ	(1) 男性、女性生殖機能 (2) 受精と胎児の発生 (3) 成長と老化			講義		
15	試験(1時間) まとめ(1時間)	(1) 筆記試験 (2) まとめ			試験 講義		
評価方法	筆記試験 100 点						
教科書 参考文献	系看 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① (医学書院)						
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと						

授業科目	生化学	担当教員	外部講師 佐藤 克哉	単位数	1	時 期	1年次 5月～7月
				時間数	30		
目的と目標	<p>生体の構成成分の種類と化学的物質・反応、遺伝子情報を学び、生体内での変化、破綻した状態である疾病との関係を理解する。</p> <p>1 動物細胞の微細構造を説明できる。</p> <p>2 タンパク質、糖質、脂質の性質と生体内での代謝を理解できる。</p> <p>3 遺伝情報がどのように保存され、発現されるか理解できる。</p> <p>4 ビタミンとホルモン、酵素の作用について理解できる。</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	生化学の基礎知識及び細胞の構造と機能	(1) 生化学とは何か (2) 生体を構成する元素と分子 (3) 細胞の性状・構造			講義	外部講師 (佐藤克哉)	
2	代謝の基礎と酵素・補酵素	(1) 代謝と生体のエネルギー (2) 酵素の基礎知識 (3) 補因子・ビタミンの種類と生理作用			講義		
3	糖質の構造と機能	(1) 糖質とは (2) 糖質の機能と構造			講義		
4	糖質代謝	(1) 糖質の消化と吸収 (2) グリコーゲンの代謝 (3) ペントースリン酸回路			講義		
5	脂質の構造と機能	(1) 脂質の種類と役割			講義		
6	脂質代謝	(2) 脂質の消化と吸収 (3) 脂肪酸の分解、生合成 (4) コレステロールの生合成と利用			講義		
7	タンパク質の構造と機能	(1) タンパク質とは (2) アミノ酸・タンパク質の構造と分類			講義		
8	タンパク質代謝	(1) タンパク質の消化と吸収 (2) アミノ酸代謝			講義		
9	ポルフィリン代謝と異物代謝	(1) ヘムの分解とビリルビン代謝 (2) 生体異物・活性酵素とその除去			講義		
10	遺伝子と核酸	(1) 遺伝子情報とは (2) 遺伝子学の基礎知識 (3) 核酸の構造とヌクレオチドの代謝			講義		
11	遺伝子の複製・修復・組換え	(1) DNAの複製 (2) DNAの損傷と修復 (3) 遺伝子多型			講義		
12	転写	(1) 転写とは (2) 転写の開始、RNA鎖の伸張、終結 (3) 遺伝子の発現調節			講義		
13	翻訳と翻訳後修飾	(1) 翻訳の概要とメカニズム (2) 翻訳後修飾			講義		

14	シグナル伝達 がん	(1) シグナル伝達の概要 (2) シグナル伝達の機序 (1) がん抑制遺伝子とがん遺伝子 (2) がん薬物療法・がん免疫療法	講義	
15	試験 (1時間) まとめ (1時間)	(1) 筆記試験 (2) まとめ	試験 講義	
評価方法	筆記試験を主とする (80%程度) 小テストの成績やレポート等の提出課題の内容 (計 20%程度) も参考とする 合計 100 点			
教科書 参考文献	系看 専門基礎 生化学 人体の構造と機能② (医学書院)			
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと			

授業科目	看護に役立つ物理学	担当教員	外部講師 山内 浩司	単位数	1	時期	1年次 5月～9月			
				時間数	30					
目的と目標	<p>安全・安楽な看護技術を修得するための基礎として、物理的なものの見方や人間の体の運動生理学と力学を関連させたメカニズムが理解できる。</p> <p>1 さまざまな現象を物理学的に理解する手法を身につけることができる。</p> <p>2 ボディメカニクスの基礎を理解し、ボディメカニクスを活用した姿勢と動作がわかる。</p>									
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員				
1 2	体位変換の原理となる物理的原理	(1) 力と力のモーメント (2) てこ (3) 腰を曲げたときにかかる力 (4) 動作			講義	外部講師 (山内浩司)				
3 4	人が安定しやすい体位を得るための物理的原理	(1) 慣性モーメント (2) 重心の安定性								
5 6	看護ボディメカニクス	(1) ボディメカニクスの意義 (2) ボディメカニクスの基礎 ボディメカニクスからみた姿勢と動作								
7	人が転倒しやすくなるのを防ぐための物理的原理	(1) 垂直抵抗 (2) 摩擦力								
8	人と圧力の物理的原理	(1) 流体 (2) 圧力と応力 (3) 粘性 (4) 気圧								
9		(5) 血圧が測定できる理由 (6) 血圧の重力による影響 (7) 入浴が身体に与える影響								
10 11		(8) 圧力 (9) 水圧 (10) サイフォンの原理 (11) 点滴・ドレナージの仕組み (12) 吸引のしくみ								
12		(1) 呼吸の仕組み (2) 胸腔ドレナージ								
13 14 15	看護に必要な熱の基本的原理	(1) 熱とエネルギー (2) 温度 (3) 熱の伝達 (4) 身体の温度 (5) 体温調節 ①体温の平衡 ②体温調節のメカニズム (6) 放射線の基礎								
	試験 (1時間)									

評価方法	筆記試験 100点
教科書 参考文献	看護学生のための物理学（医学書院）
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと

授業科目	栄養学	担当教員	外部講師☆ 長岡 仁	単位数	1	時 期	2年次 5月～9月
			①安田 和代 ②前田 ほのお ③堀尾 忠司	時間数	30		
目的と目標	<p>生体の発育、成長、生命活動に必要な栄養素の機能、栄養問題による生体に及ぼす影響を理解し、患者の栄養管理を効果的にすすめるための看護師の役割を認識する。</p> <p>1 各栄養素の栄養的役割を理解する。 2 栄養所要量と栄養状態の判定方法について理解する。 3 我が国の栄養状態の変遷と将来の方向を理解する。 4 疾患別の食事療法の特徴を理解する。 5 病院での栄養管理の意義と実際を知り、食事と看護について考えることができる。</p>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	人間栄養学と看護・ 栄養状態と判定	(1) 栄養学の歴史、人間栄養学 (2) 栄養状態の評価・判定法		講義	外部講師 (長岡 仁)		
2	栄養素の種類とはたらき エネルギー代謝	(1) 栄養素の種類とはたらき (2) 三大栄養素のエネルギー (3) エネルギー代謝、消費、測定		講義			
3	栄養素の消化・吸収	(1) 栄養素の消化 (2) 栄養素の吸収 (3) 栄養素の体内運搬		講義			
4	栄養素の体内代謝と 栄養ケア・マネジメント	(1) 栄養素の体内代謝 (2) 栄養ケア・マネジメントとは (3) 栄養ケア計画、モニタリング、評価		講義			
5	ライフステージと栄養	(1) 発達各期における必要な栄養と課題		講義			
6	健康づくりと食品・食 事・食生活	(1) 食品と食品群 (2) 食生活の変遷と栄養の問題点 (3) 食生活指針と健康づくり		講義			
7	食事療法の基礎知識・ 臨床栄養	(1) 栄養素と代謝 (2) 食事摂取基準 (3) 食品機能と分類		講義	外部講師 (安田和代)		
8	病院給食の概要	(1) 病人食の種類と形態 (2) 食事箋 (3) 病院給食の流れ (4) 食事と看護		講義	外部講師 (前田ほのお)		
9 10 11 12 13	疾患別食事療法	(1) 疾病別食事療法の実際 (2) 消化器系疾患の食事療法 (3) 内分泌・代謝疾患の食事療法 (4) 循環器疾患の食事療法 (5) 糖尿病の食事療法 (6) 腎疾患の食事療法 (7) 妊娠と食事 (8) その他の疾患の食事療法		講義	外部講師 (安田和代) (前田ほのお)		

14 15	チームで取り組む栄養管理（3時間） 試験（1時間）	（1）チームアプローチと栄養管理 （2）栄養スクリーニング、栄養マネジメント （3）様々な栄養補給法 （4）NST活動の実際 （1）筆記試験	試験	外部講師 （堀尾忠司） 外部講師 （安田和代）
評価方法	筆記試験 100点 （1～6回：50点、7～14回：50点）			
教科書 参考文献	系看 専門基礎 栄養学 人体の構造と機能③（医学書院） 系看 別巻 栄養食事療法（医学書院） 糖尿病食事療法のための食品交換表（日本糖尿病学会） 八訂食品成分表（女子栄養大学出版部）			
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと			
☆担当教員 の実務経験	①②③栄養士として医療機関に勤務した経験を活かした授業を展開する			

授業科目	病理学	担当教員	外部講師 石黒 啓司	単位数	1	時 期	1年次 4月～5月
				時間数	15		
目的と目標	疾患による生体各器官の病的状態、生体の反応、生体のメカニズムについて理解できる。 1 疾病の分類と成り立ちが理解できる。 2 疾病の原因・病変の特徴が理解できる。 3 系統別疾患の病態・治療・検査について理解できる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	病理学で学ぶこと	(1) 看護病理学 (2) 病気の原因・外因 (3) 公害病・医原病・職業がん			講義	外部講師 (石黒啓司)	
	細胞・組織の障害と修復	(1) 細胞の損傷とその原因 (2) 細胞の適応現象			講義		
2	炎症と免疫	(1) 炎症の分類 (2) 免疫と免疫不全・アレルギー			講義		
3	移植と再生医療	(1) 臓器移植・骨髄移植 (2) 再生医療			講義		
4	循環障害	(1) 循環系の障害 (2) 浮腫・うっ血・充血・出血・血栓・虚血 梗塞・ショック・高血圧			講義		
5	代謝障害	(1) 脂質・糖・タンパク質代謝障害 (2) その他の代謝障害			講義		
6	先天異常と遺伝子異常	(1) 先天異常 (2) 遺伝子異常と疾患			講義		
7	腫瘍	(1) 腫瘍の定義と分類 (2) 腫瘍の診断と治療			講義		
8	試験 (1時間)				試験		
評価方法	筆記試験 100点						
教科書 参考文献	系看 専門基礎 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進① (医学書院)						
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと						

授業科目	疾病・治療学 I	担当教員	外部講師☆ ①山田 俊樹 ②森下 健太郎 ③梅田 幸生 ④田中 領 ⑤石村 雄大	単位数	1	時期	1年次 9月～11月
			時間数	30			
目的と目標	疾病の原因・病変の特徴及び系統別疾患の病態・治療・検査について理解できる。 1 各器官の構造と機能を理解したうえで、疾患の成り立ちが理解できる。 2 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。 3 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2 3	血液・造血器機能障害	(1) 血液の生理と造血の仕組み (2) 骨髄・血液の疾患 (3) 骨髄移植 (4) 各種輸血療法 (5) 骨髄穿刺			講義	外部講師 (山田俊樹)	
4 5 6	循環器系機能障害	(1) 循環器系の疾病 (2) 循環機能の障害 (3) 循環器内科疾患 (4) 閉塞性の循環異常 (5) 診断・検査・治療・処置 (6) 循環器外科疾患			講義	外部講師 (森下健太郎)	
7 8 9 10 11 12	運動器系機能障害	(1) 運動器の構造と機能 (2) 間接運動の異常・神経障害・筋肉の障害 (3) 診断・検査と治療、手術療法、保存療法 (4) 骨折、脱臼、神経・筋・腱・靭帯の損傷 (5) 先天性異常、骨・関節の炎症性疾患 (6) 骨腫瘍、麻痺性疾患、脊椎疾患			講義	外部講師 (梅田幸生) 外部講師 (田中 領)	
13 14 15	腎臓器系機能障害 (5時間)	(1) 腎臓の構造と機能 (2) 急性・慢性腎炎 (3) 腎不全 (4) 透析療法 (5) 腎移植			講義	外部講師 (石村雄大)	
	試験 (1時間)	(1) 筆記試験			試験	外部講師 (石村雄大)	
評価方法	筆記試験 100点 (1～3回: 20点、4～8回: 30点、9～12回: 30点、13～15回: 20点)						
教科書 参考文献	系看 専門 血液・造血器 成人看護学④、系看 専門 循環器 成人看護学③ 系看 専門 運動器 成人看護学⑩、系看 専門 腎臓・泌尿器 成人看護学⑧ (医学書院)						
事前準備や 受講要件等	解剖学 I・II、生理学 I・II で関連する部分の復習 教科書を読んで講義に臨むこと						
☆担当教員 の実務経験	①～⑤医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	疾病・治療学Ⅱ	担当教員	外部講師☆ ①西田 浩 ②中山 則之 ③清水 省吾 ④三田 直樹 ⑤山崎 健路 ⑥國枝 克行 ⑦大洞 尚司 ⑧山中 麻美 ⑨高橋 寛和	単位数	1	時期	1年次 10月～12月
			時間数	30			
目的と目標	疾病の原因・病変の特徴及び系統別疾患の病態・治療・検査について理解できる。 1 各器官の構造と機能を理解したうえで、疾患の成り立ちが理解できる。 2 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。 3 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2 3 4 5	脳神経系機能障害	(1) 脳機能障害によって起こる疾患 (2) 脳血管系の障害 (3) 脳圧亢進 (4) 脳神経外科疾患 (くも膜下出血) (5) 脳神経内科疾患 (6) 脳梗塞・脳出血等			講義	外部講師 (西田 浩) 外部講師 (中山則之)	
6 7 8 9 10	消化器系機能障害	(1) 消化器系の疾患 (2) 消化管粘膜の障害と通過障害 (3) 肝臓・胆嚢・膵臓の機能障害 (4) 排便機能の障害 (5) 排泄部位の変更による障害			講義	外部講師 (清水省吾) (三田直樹) (山崎健路) (國枝克行)	
11 12 13 14 15	内分泌・代謝障害 (9時間)	(1) 内分泌機能 (2) 糖質代謝異常 (3) 脂質代謝異常 (4) タンパク質代謝異常 (5) 内分泌系の腫瘍			講義	外部講師 (大洞尚司) (山中麻美) (高橋寛和)	
	試験 (1時間)	(1) 筆記試験			試験	外部講師 (高橋寛和)	
評価方法	筆記試験 100点 (1～2回: 10点、3～5回: 20点、6～8回: 20点、9～10回: 10点、11～15回: 40点)						
教科書 参考文献	系看 専門Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦、系看 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤、 系看 専門Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ (医学書院)						
事前準備や 受講要件等	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱで関連する部分の復習 教科書を読んで講義に臨むこと						
☆担当教員の 実務経験	①～⑨医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	疾病・治療学Ⅲ	担当教員	外部講師☆ ①増田 篤紀 ②仲野 正博 ③横山 康宏 ④長尾 育子 ⑤丹羽 義明 ⑥山田 南星 ⑦石丸 純一 ⑧永井 美貴	単位数	1	時期	1年次 11月～1月
			時間数	30			
目的と目標	疾病の原因・病変の特徴及び系統別疾患の病態・治療・検査について理解できる。 1 各器官の構造と機能を理解したうえで、疾患の成り立ちが理解できる。 2 各疾患に必要な検査・治療が理解できる。 3 各系統別疾患に関する病態・治療・検査・予後を理解し、看護展開に生かすことができる。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1 2 3 4	呼吸器系機能障害	(1) 呼吸器の構造と機能 (2) 呼吸系の疾患 (3) 気道と肺の感染症 (4) 換気不全 (5) 肺の腫瘍 (6) 酸素療法と機械的人工換気			講義	外部講師 (増田篤紀)	
5 6 7	泌尿器系機能障害 (5時間)	(1) 上部尿路系の疾患 (2) 下部尿路系の疾患 (3) 尿路系の腫瘍 (4) 排尿障害 (5) 人工膀胱造設術			講義	外部講師 (仲野正博)	
8 9	生殖器系機能障害	(1) 女性生殖器 (2) 主な症状 (3) 主な検査と治療			講義	外部講師 (横山康宏)	
10	乳腺外科疾患	(1) 乳腺・乳房の疾患とその治療			講義	外部講師 (長尾育子)	
11 12 13 14	感覚器系機能障害	(1) 眼の疾患とその治療 (2) 耳の疾患とその治療 (3) 鼻・咽頭の疾患とその治療 (4) 歯・口腔外科の疾患とその治療			講義	外部講師 (丹羽義明) (山田南星) (石丸純一)	
15	皮膚の疾患	(1) 皮膚の構造と機能 (2) 皮膚の疾患とその治療			講義	外部講師 (永井美貴)	
	試験 (1時間)	(1) 筆記試験			試験	外部講師 (長尾育子)	
評価方法	筆記試験 100点 (1～4回: 30点、5～7回: 20点、8～9回: 15点、10回: 5点、11回: 5点、12～13回: 15点、14回: 5点、15回: 5点)						
教科書 参考文献	系看 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学②、系看 専門Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧、 系看 専門Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨、系看 専門Ⅱ 眼 成人看護学⑬、 系看 専門Ⅱ 耳鼻咽喉 成人看護学⑭、系看 専門Ⅱ 皮膚 成人看護学⑯、 系看 専門Ⅱ 歯・口腔 成人看護学⑰、系看 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院)						
事前準備や 受講要件等	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱで関連する部分の復習 教科書を読んで講義に臨むこと						
☆担当教員の 実務経験	①～⑨医師として医療機関に勤務している経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	免疫と感染	担当教員	外部講師 末松 寛之	単位数	1	時期	1 年次 5 月～1 0 月	
				時間数	3 0			
目的と目標	看護上問題となる病原微生物の形態や性状、生体防御機構を学び、感染予防、感染症と人間社会の関係を理解する。 1 微生物の基礎的な事項を学ぶ。 2 微生物がヒトに対して及ぼす影響を理解し、その対策を学ぶ。 3 病原微生物を把握して、感染の拡大を防止する。							
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員		
1	ヒトと感染症	(1) 感染症とは (2) ヒトと感染症の歴史			講義	外部講師 (末松寛之)		
2	感染・感染症の機構と種類	(1) 感染の機構(しくみ) (2) 感染症の種類 (3) 感染症の現状 (4) 感染症の検査・診断・治療の概要			講義			
3	免疫と生体防御機構	(1) 免疫・生体防御の機構			講義			
4		(2) 医療における免疫 (3) 獲得免疫のしくみ (4) 液性免疫 (5) 細胞性免疫 (6) 自己免疫			講義			
5		感染症の予防と対策	(1) 感染予防対策 (2) 滅菌と消毒 (3) 予防接種 (4) 感染予防対策 (5) 法律による感染症対策					
6								
7	細菌感染症	(1) 細菌の形態と特徴			講義			
8		(2) 細菌の種類						
9		(3) 細菌の病原性						
10		(4) 細菌感染の検査・診断						
11		(5) 細菌感染症の治療と予防 (6) 主な病原細菌と疾患						
12	ウイルス感染症	(1) ウイルスの性質			講義			
13		(2) ウイルス感染症の検査・診断 (3) ウイルス感染症の治療と予防 (4) 病原ウイルスと疾患						
14		真菌感染症・寄生虫感染症	(1) 真菌の性質 (2) 真菌の検査・診断・治療 (3) 病原真菌と疾患 (4) 寄生虫の分類					講義
15			(1) 筆記試験 (2) まとめ					試験 講義
	試験 (1 時間) まとめ (1 時間)							
評価方法	筆記試験 100 点							
教科書 参考文献	わかる! 身につく! 病原体・感染・免疫 (南山堂)							
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと							

授業科目	薬理学	担当教員	外部講師 丹羽 雅之	単位数	1	時期	1年次 7月～11月
				時間数	30		
目的と目標	薬物の生体への影響を学び、薬物の取り扱いや管理について理解する。 1 薬の種類とその適用についての知識を身につける。 2 薬の作用部位・作用メカニズムを理解する。 3 薬の体内動態を理解する。 4 薬の有害作用・薬物相互作用を理解する。						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	薬理学総論 クスリとは	(1) 薬の分類 (2) 薬の使用目的 (3) 薬の歴史 (4) 医薬品の開発			講義	外部講師 (丹羽雅之)	
2	薬と法律	(1) 薬事法 (2) 毒薬、劇薬、普通薬			講義		
3	薬の作用機序	(1) 薬理作用の基本形式 (2) 薬の治療域と作用点 (3) 薬の投与経路			講義		
4	薬の生体内動態	(1) 吸収・分布・代謝・排泄 (2) バイオアベイラビリティ(生物学的利用能) (3) 生物学的半減期、TDM			講義		
5	薬効に影響する因子	(1) 薬効に及ぼす因子			講義		
6		年齢から見た薬効、薬物アレルギー、					
7		薬物相互作用 (2) 薬物中毒					
8	薬理学各論 抗菌薬	(1) 抗菌作用のメカニズム (2) 抗感染症薬各論 (3) 耐性菌			講義		
9	化学療法	(1) 抗がん作用のメカニズム (2) 抗がん薬各論			講義		
10	末梢の神経活動に作用する薬物	(1) 自律神経作用薬			講義		
11		(2) 交感神経作用薬					
12		(3) 副交感神経作用薬					
13	中枢神経系に作用する薬物	(4) 筋弛緩薬、局所麻酔薬 (1) 全身麻酔薬			講義		
14	心臓・血管系に作用する薬物	(2) 催眠薬、抗不安薬、抗精神病薬等 (1) 抗高血圧薬、抗狭心症薬、強心薬、 抗不整脈薬、利尿薬等			講義		
15	試験 (1時間) 解説 (1時間)	(1) 筆記試験 (2) 解説			試験 講義		
評価方法	筆記試験 100点						
教科書 参考文献	新体系看護学全書 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進③ (メヂカルフレンド社)						
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと						

授業科目	臨床薬理学	担当教員	専任教員☆ 野口 健太	単位数	1	時期	2年次 7月～10月		
				時間数	15				
目的と目標	薬理学で学んだ知識を活用し、安全に薬物療法を行うための基礎的知識を習得する。 1 薬理学の知識を活用し、看護の視点から対象への影響を考える。 2 看護師が薬剤を使用する際のリスクを把握したうえで、臨床判断と患者の服薬管理能力を高めるための看護実践を学ぶ。								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1	医薬品を看護師が取り扱うこと	(1) 医薬品の分類 (2) 医薬品の作用原理とその影響 (3) 看護師が医薬品を適正に利用するとは			講義	専任教員 (野口健太)			
2	発達段階ごとの薬物の管理	(1) 発達段階ごとの薬剤の吸収 (2) 薬剤使用時の留意点 (3) 薬剤の管理			講義				
3 4	主な生活習慣病に使用する薬剤	(1) 生活習慣病 (2) 高血圧・脂質異常症・心疾患・糖尿病に用いる治療薬使用時の看護 (事例に基づいて考える) (3) グループワーク後に発表			講義 演習				
5 6	がん患者に使用する薬剤	(1) がん性疼痛に関する治療薬使用時の看護 (2) 抗がん剤使用時の看護 (3) グループワーク後に発表			講義 演習				
7	こころの病気に使用する薬剤	(1) 抗精神病薬 (2) 抗不安・うつ薬 (3) 睡眠薬 (4) 向精神薬使用時の看護			講義				
8	試験 (1時間)	筆記試験			試験				
評価方法	筆記試験 100点								
教科書 参考文献	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ちと回復の促進② 臨床薬理学 (MC メディカ出版) 新体系看護学全書 薬理学疾病の成り立ちと回復の促進③ (メヂカルフレンド社) 治療薬マニュアル (医学書院)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと								
☆担当教員 の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。								

授業科目	形態機能学	担当教員	専任教員☆ 鈴木悦子	単位数	1	時期	1年次 9月～12月
				時間数	15		
目的と目標	<p>解剖学・生理学で学んだ身体の知識をふまえて、人間の生活行動について、身体の構造と機能を関連付けて理解する。</p> <p>1 人間の日常的に行われている生活行動について、体の構造と機能を関連付けて理解できる。</p> <p>2 「動く」「食べる」「息をする」といった普段の日常生活で行われていることについて、身体の理解を深め看護実践につなげる。</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	何のための生活行動か	(1) 生きているとはどういうことか (2) 個体を外界から区別しているもの (3) 内部環境の恒常性 (4) 生命維持と生活行動			講義	専任教員 (鈴木悦子)	
2	恒常性維持のための物質の流通	(1) 流通媒体 (血液) (2) 流通路 (リンパ・血管) (3) 流通の原動力 (心臓)			講義		
3	恒常性維持のための調節機構	(1) 神経節調節 (2) 液性調整 (3) ストレスと恒常性維持			講義		
4	日常生活行動のからだのしくみと看護	1. 動く			講義		
5		(1) 骨格、関節、骨格筋、姿勢 (2) 神経から筋肉への指令 (3) 意図的な運動、反射			演習		
6		2. 食べる			講義		
7		(1) 食欲と食行動 (2) 咀嚼 (3) 嚥下 (4) 消化吸収			講義		
		3. 息をする (1) 呼吸と呼吸運動 (2) ガス交換					
		4. トイレに行く (1) 排尿、排便 (2) 排泄行動			講義		
		5. お風呂に入る (1) 皮膚と毛髪、爪 (2) 入浴動作と体温調整機能			試験		
8	試験(1時間)	試験					
評価方法	筆記試験 100点						
教科書 参考文献	看護形態機能学 人体の構造と機能③ メヂカルフレンド社						
事前準備や 受講要件等	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱで関連する部分の復習 教科書を読んで講義に臨むこと						
☆担当教員 の実務経験	看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。						

授業科目	看護をめぐる法と制度 I	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	2年次 9月～12月
			①中川 由佳 ②武山 修	時間数	30		
目的と目標	社会保障の概念を学び、実際の活動を理解するとともに、保健医療福祉の連携の必要性や、福祉サービスの活用方法を理解する。 1 社会保障制度と社会福祉の概要を理解する。 2 現代社会において生じる生活問題を知り、社会的施策としての社会保障制度について理解する。 3 生活問題に対応する社会福祉サービス及び、社会福祉の実践活動を理解する。 4 社会福祉サービスと、医療・看護との連携の必要性について理解する。						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1	現代社会の変化	(1) 少子高齢化、2040年問題 (2) 地域社会の変化 (3) 財政危機		講義	外部講師 (中川由佳)		
2	社会福祉、社会保障の概念	(1) 社会福祉・社会保障の理念 (2) 歴史 (3) 社会保障制度		講義			
3	社会福祉の組織と実施体制	(1) 社会福祉行政 (2) 地域福祉		講義			
4	医療保障	(1) 医療保障制度の沿革 (2) 医療保障制度の構造と体系 (3) 健康保険と国民健康保険		講義	外部講師 (武山 修)		
5		(4) 保険診療のしくみ (5) 公費負担医療 (6) 国民医療費					
6	介護保障	(1) 介護保険制度の概要 (2) 介護保険制度の課題と展望		講義	外部講師 (武山 修)		
7	高齢者福祉	(1) 高齢者福祉の施策 (2) 老人保健事業					
8	年金保険制度	(1) 年金保険制度のしくみ (2) 年金保険制度の歴史 (3) 年金保険制度の課題		講義	外部講師 (武山 修)		
9	労働保険制度	(1) 雇用保険制度 (2) 労働者災害補償保険制度		講義			
10	障害者福祉	(1) 障害者福祉の定義と実態		講義	外部講師 (中川由佳)		
11		(2) 障害者福祉の理念 (3) 障害者福祉制度の変遷 (4) 新たな法体系の整備					
12	児童福祉・母子福祉	(1) 児童家庭福祉 ①児童と育ちの環境としての家庭生活の現状 ②児童にかかわる法と施策		講義	外部講師 (中川由佳)		
13		<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童福祉法 ・ 母子保健法と母子保健施策 ・ ひとり親家庭の支援 ・ DV 対策 ・ 児童売買、児童ポルノに係る行為等の規制及び処罰並びに児童の保護等に関する法律 ・ 少年法 ・ 児童手当 ・ 児童扶養手当、特別児童扶養手当 					

14	公的扶助	(1) 貧困・低所得問題と公的扶助制度 (2) 生活保護制度のしくみ ①生活保護制度の目的・原理・原則 ②生活保護の種類と方法 ③生活保護基準 ④生活保護の費用 ⑤生活保護の実施 (3) 低所得者対策 (4) 近年の動向		外部講師 (武山 修)
15	試験 1時間 まとめ1時間	(1) 筆記試験 (2) まとめ	試験	外部講師 (武山 修)
評価方法	筆記試験 100点 (1～3・10～13回: 50点、4～9・14・15回: 50点)			
教科書 参考文献	系看 専門基礎 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③(医学書院) 国民衛生の動向(厚生統計協会) 国民の福祉と介護の動向(厚生統計協会)			
事前準備や受 講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと			
☆担当教員の 実務経験	①②社会福祉士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。			

授業科目	看護をめぐる法と制度Ⅱ	担当教員	外部講師 鷺野 嘉映 谷口 泰弘	単位数	1	時期	3年次 9月～11月
				時間数	15		
目的と目標	<p>医療従事者に与えられた職責を正しく遂行するため、関係法規の理解を深め、これを積極的に守る態度を養う。</p> <p>1 看護職にかかわる法規の基礎的知識を理解する。</p> <p>2 日常生活における具体的な法律問題を解決する能力（リーガルマインド）を養う。</p> <p>3 法的視点から看護職の責務を理解する。</p>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1 2	法の概念	(1) 法の概念 (2) 医療をめぐる法的問題 (3) 衛生法規の意義、沿革、分類 (4) 厚生行政のしくみ		講義	外部講師 (鷺野嘉映) (谷口泰弘)		
3	医事法規	(1) 保健師助産師看護師法 (2) 看護師等の人材確保の推進に関する法律 (3) 医師法 (4) 医療法 (5) その他の医療資格法 (6) 医療を支える法		講義	外部講師 (鷺野嘉映)		
4	薬事法規	(1) 薬事法 (2) 薬剤師法 (3) 薬事の関係法		講義			
5	環境衛生法規 労働関連法規	(1) 環境衛生関連法 (2) 労働基準法 (3) 労働安全衛生法		講義			
6	保健衛生法規	(1) 地域保健法 (2) 精神保健及び精神障がい者福祉に関する法律 (3) 母子保健法、母体保健法 (4) 学校保健法 (5) その他保健衛生法規		講義			
7	社会保険関連法規	(1) 社会保険の概要 (2) 医療保険 (3) 社会福祉関係法 (4) 各年金法		講義			
8	試験 1 時間	(1) 試験		試験			
評価方法	筆記試験 100 点						
教科書 参考文献	健康支援と社会保障制度① 看護関係法令（医学書院） 国民衛生の動向（厚生統計協会） 国民の福祉と介護の動向（厚生統計協会）						
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと						

授業科目	公衆衛生学	担当教員	外部講師 鷺野 嘉映	単位数	1	時期	3年次 4月～7月		
				時間数	30				
目的と目標	社会の背景や動向、様々な健康支援の在り方を学び、健康の保持・増進と疾病等の予防について理解する。 1 医療活動、地域保健、学校保健の実践を目指した公衆衛生の基礎的知識が理解できる。 2 社会の背景や動向、公衆衛生活動の実際を知り、看護に活かすことができる。								
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員			
1	公衆衛生学とは	(1) 公衆衛生の定義 (2) 保健制度 (3) 人口統計			講義	外部講師 (鷺野嘉映)			
2 3	人口の動向	(1) 人口の動向 (2) 人口動態 (3) 平均寿命			講義				
4 5 6	疫学	(1) 予防医学の意味と分類 (2) 疫学の分類と特徴 (3) スクリーニング検査			講義				
7 8 9	感染症	(1) 感染症の疫学と予防 (2) 感染症に関する歴史 (防疫体制) (3) 感染症に関する法律 (4) 予防接種			講義				
10 11	環境衛生	(1) 健康問題と環境 (2) 環境問題の動向			講義				
12	食品衛生	(1) 食品保健 (2) 食品がもたらす健康障害			講義				
13 14	公衆衛生活動の実際	(1) 母子保健 (2) 学校保健 (3) 成人・老人保健 (4) 精神保健 (5) 産業保健			講義				
15	試験 (1時間) まとめ (1時間)	(1) 筆記試験 (2) まとめ			試験 講義				
評価方法	筆記試験 100点								
教科書 参考文献	わかりやすい公衆衛生学 (第4版) (ヌーベルヒロカワ) 国民衛生の動向 (厚生統計協会)								
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと								

授業科目	医療学総論	担当教員	外部講師	単位数	1	時期	3年次 10月～12月
			川地 俊明	時間数	15		
目的と目標	<p>健康についての考え方や健康管理の原則を学び、社会・生活行動と疾病との関連を理解し、各種疾病の発生予防・指導を含めた健康管理の実際を学ぶ。人々の健康の維持、疾病から回復に関わる保健医療の現状、問題点、背景を知り看護師としての視点を理解する。</p> <p>1 社会と生活行動と疾病の関連を理解し、健康の現状を知る。</p> <p>2 健康管理の原則と健康管理の実際を学ぶ。</p> <p>3 医学・医療の本質及びその現状と問題点を学び、看護師としてあるべき姿を考える。</p>						
回数	学習課題	内 容			方 法	担当教員	
1	健康の概念と現状	(1) 健康とは (2) 健康の判定 (3) 健康阻害要因 (4) 国民の健康状態 (5) 健康意識の現状 (6) 健康増進の考え方 (7) 健康増進の原則 (8) 健康増進の現状と問題点			講義	外部講師 (川地 俊明)	
2	人の歩みを支える医療	(1) 人の歩みを支える医療 (2) 患者の視点に立つ (3) 様々な文化・宗教の死生観			講義		
3	医療機関の連携	(1) 医療機関の特徴とその役割 (2) 医療機関の連携の種類 (3) 医療連携における手段			講義		
	プライマリケア	(1) 本来のプライマリケア (2) 日本と海外のプライマリケア			講義		
4	医療者に求められるプロフェッショナリズム	(1) 労働観の形成期 (2) 職業倫理 (3) プロフェッショナリズムの成立期・混迷期			講義		
	医療の実践と倫理的課題	(1) 現代遺伝学の最前線 (2) 人生の最終段階における医療 (3) 臨床倫理 (4) 診断治療のプロセス			講義		
5 6	医学・医療の歴史	(1) 医学・医療の歴史を学ぶ意味 (2) 医学はどの様に発展してきたか (3) 医療の黒歴史 (4) 脳死と臓器移植 (5) 安楽死と医療 (6) 日本の医療を変えた医療訴訟 (7) 医療研究開発への患者・市民参画			講義		
7	グローバル化と医療	(1) グローバル化と健康への影響 (2) 医療のグローバル化 (3) 保健医療分野での国際協力と協調 (4) 国内の国際保健			講義		
8	試験(1時間)	(1) 筆記試験			試験		

評価方法	筆記試験 100 点
教科書 参考文献	新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度① 医療学総論 (メヂカルフレンド社) 基礎から学ぶ健康管理概論 (南江堂)
事前準備や 受講要件等	教科書を読んで講義に臨むこと

授業科目	地域包括ケア論 I	担当教員	専任教員☆ ①井戸 利恵	単位数	1	時期	2年次 11月～3月
			外部講師☆ ②岩田 利博 ③児玉 正貴子	時間数	15		
目的と目標	<p>地域包括ケアにおける多様な専門職、及び地域の人々との連携・協働を学び、地域包括ケア全体の理解を深め、看護としての役割を考える。</p> <p>1 地域包括ケアシステムの構造と展開が理解できる。 2 全国における地域づくりの実際を知り、よりよい健康的な地域づくりとは何かを考える。</p>						
回数	学習課題	内 容		方法	担当教員		
1 2	地域包括ケアシステムの構造と展開	(1) 地域包括ケアシステムの構造と展開 ① 地域包括ケアシステムの背景と発展 ② 地域包括ケアシステムの構造と構成要素		講義	専任教員 (井戸 利恵)		
3	地域活動の実際	(1) 岐阜県地域での支えあい活動の実際 ①支援セミナーの参加 ②事例紹介		講義	外部講師 (岩田 利博)		
4		(2) 社会福祉協議会の活動 (3) 地域における社会福祉協議会の活動の実際 (4) 地域ケア会議		講義	外部講師 (児玉 正貴子)		
5 6 7	全国における地域包括ケアシステム	(1) 全国における地域づくりの実際		演習 発表	専任教員 (井戸 利恵)		
8	まとめ (1時間)						
評価方法	<p>グループワーク成果物 30点 (5～7回) 個人成果物 20点 レポート 50点 合計 100点 *再試験の場合は、個人での成果物とレポート試験で評価する。</p>						
教科書 参考文献	<p>系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 地地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア (メディカ出版) 医療福祉サービスガイドブック (医学書院) グループワークに必要な資料持参</p>						
事前準備や受講要件等	地域・在宅看護論の既習内容を復習						
☆担当教員の 実務経験	<p>①看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ②社会福祉士として施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ③社会福祉協議会職員として勤務した経験を活かした授業展開をする。</p>						

授業科目	地域包括ケア論Ⅱ	担当教員	専任教員☆ ①井戸 利恵	単位数	1	時期	3年次 6月～7月
			外部講師☆ ②大原 真須美 ③小寺 裕見子	時間数	15		
目的と目標	<p>地域包括ケアにおける多様な専門職、及び地域の人々との連携・協働を学び、地域包括ケア全体の理解を深め、看護としての役割を考える。</p> <p>1 保健医療福祉の多職種連携を理解したうえで看護師の役割を理解できる 2 さまざまなライフサイクル、健康レベルにある人々の地域における健康支援、サービスの実態を知り、地域包括ケア・地域共生社会の仕組みが理解できる。 3 地域で生活する多様な人々を対象とした、患者・家族に対する看護の役割について理解できる。</p>						
回数	学習課題	内 容			方法	担当教員	
1	地域包括ケアの対象と実践	(1) 在宅療養者を支援するための多職種連携について			講義	専任教員 (井戸利恵)	
2	障害のある人への健康支援活動	(1) 精神障害のある人への支援の実際			講義	外部講師 (大原真須美)	
3		(2) 発達に障害のある人への支援の実際			講義	外部講師 (小寺裕見子)	
4 5 6 7		(3) 難病・精神・障害者(児)・母子支援の多様性と課題			演習	専任教員 (井戸利恵)	
8	まとめ(1時間)				発表		
評価方法	<p>グループワーク成果物 30点(4～7回) 個人成果物20点 レポート 50点 合計100点 *再試験の場合は、個人の成果物とレポート試験で評価する。</p>						
教科書 参考文献	<p>系統看護学講座 地域・在宅看護の基盤 (医学書院) 地地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア (メディカ出版) 医療福祉サービスガイドブック (医学書院) グループワークに必要な資料持参</p>						
事前準備や受講要件等	地域・在宅看護論の既習内容を復習						
☆担当教員の 実務経験	<p>① 看護師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ① 精神福祉士として施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。 ② 看護師および社会福祉士として医療・福祉施設に勤務した経験を活かした授業展開をする。</p>						